

保育士の最適給与水準分析と 待遇改善方策の提案

4713128 松田 栞

研究背景

▶ 北海道の待機児童数：約180人

➡ 潜在的待機児童：1297人^(H28.4.1)



待機児童を0にするためには、保育所の増設と、
それに伴い、保育士数の確保が必要である

⇒ しかし、現状保育士の数は不足している

出典：北海道庁

研究背景

- ▶ 北海道の保育士登録数：49,011人
 - ➡ 勤務保育士数 13,833人
- ▶ 保育士の給与水準は低い

※平成25年10月時点

約70%が保育士資格を持ちながら働いていない現状

職種別現金給与額	年齢	勤続年数	所定内労働時間	超過労働時間	きまって支給する現金給与額	所定内給与額		年間給与その他の特別給与額	労働者数
						千円	千円		
保育士(保育士) ※総額	35.0	7.6	171	4	219.2	213.0	603.0	22,208	
全産業平均	42.3	12.1	164	13	333.3	304.0	892.7	2,240,650	
幼稚園教師 ※総額	32.3	7.5	175	3	229.8	225.7	644.0	7,695	
介護支援専門員(ケアマネージャー)	47.0	8.7	165	5	261.6	251.6	567.3	7,337	
ホームヘルパー	45.3	6.6	165	7	225.1	211.2	341.9	8,729	
福祉施設介護員	39.7	6.0	165	4	223.5	210.4	479.0	67,941	
警備員	38.2	7.8	159	7	329.2	295.7	832.7	64,184	
准看護士	48.3	10.9	160	4	277.4	253.3	638.5	17,823	
看護補助者	44.0	7.5	159	3	206.8	194.9	431.9	14,350	
医師	40.0	5.1	159	11	848.4	769.2	801.6	9,522	
弁護士	35.6	6.6	177	0	822.3	822.1	1085.9	328	
システム・エンジニア	38.0	11.8	150	21	400.6	349.0	1116.1	33,466	
小・中学校(幼稚園) 教育職 ※地方公務員(都道府県)					394.1	368.9		583,789	
小・中学校(幼稚園) 教育職 ※地方公務員(指定都市)					348.4	320.5		2,008	
小・中学校(幼稚園) 教育職 ※地方公務員(市)					322.4	308.8		11,716	
小・中学校(幼稚園) 教育職 ※地方公務員(町村)					302.7	297.9		2,819	

⇒政府は、保育士の給与の月額2%(道内:約4400円)引き上げを提案

出典：厚生労働省,総務省

本研究の位置づけ

- ▶ 保育士の待遇における、改善度と満足度に対する研究はない
- ▶ 北海道の待機児童を0にするために必要な保育士の給与水準を明らかにした研究はない

研究目的

①保育士の**待遇**における重要要因の把握

②保育士の給与水準と参入率の関係を分析し、待機児童問題を緩和するための**必要な給与レベル**の分析

待遇改善方策と
必要な給与水準レベルの提示

⇒政府の給与2%引き上げ政策の検証

研究方法

保育士資格を持つ人へアンケートを実施

①待遇

CS分析を行い、保育士の待遇に対する満足度分析

各要因の重要度と改善度を分析

②給与

待機児童を0にするために必要な保育士数の算出

保育士の給与水準と参入率の関係を分析

考察

アンケート

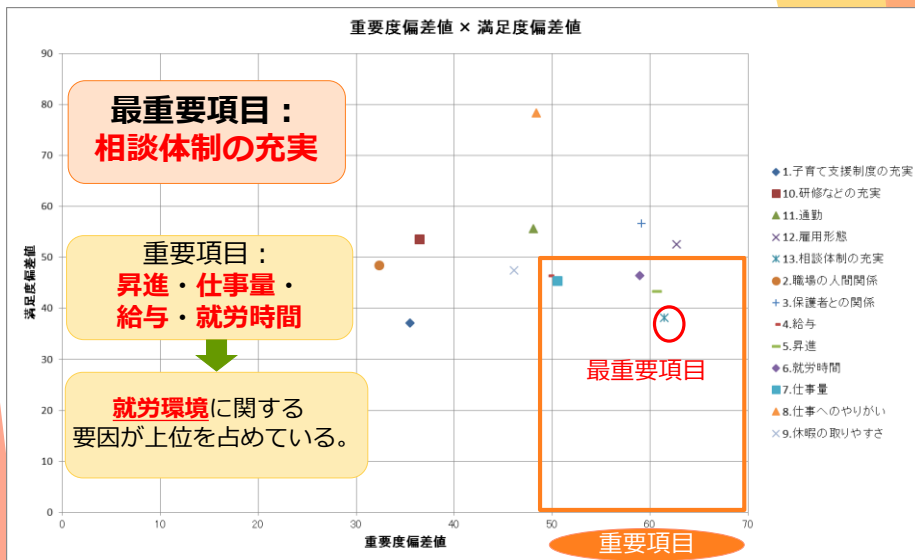
▶ 調査概要

- ・ 方法：ネットアンケート
- ・ 実施日：2016年10月28～30日
- ・ 回収サンプル数：181サンプル
- ・ アンケート対象者：保育資格を持ち、現在離職している人

▶ 項目

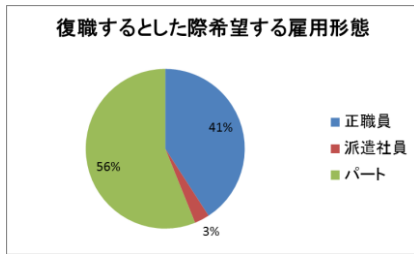
- ・ 世帯年収
- ・ 保育士をやめた理由
- ・ 保育士の待遇に関する満足度
- ・ 復職するとしたら希望する雇用形態
- ・ 給与が月額いくら上がれば復職したいと感じるか？
- ・ 年齢
- ・ 家族構成

① 待遇：CS分析



保育士の復職率を上げるには、就労環境に対するサポートを行い、雇用の負担を軽減することが必要

①待遇：雇用形態に関する分析



復職するとした際、希望する雇用形態：
パート職員が半数以上

保育士を辞めた理由	復職するとしたら希望する雇用形態		
	正社員	パート職員	統計
結婚	3	10	13
妊娠、子育て	7	14	21
給与面の不満	13	3	16

ワーキングシェア等、保育士の要望に応じて
雇用形態を選択できる体制が必要

⇒あわせて、年間130万円の壁の見直しも検討する必要

②給与：必要保育士数の推計

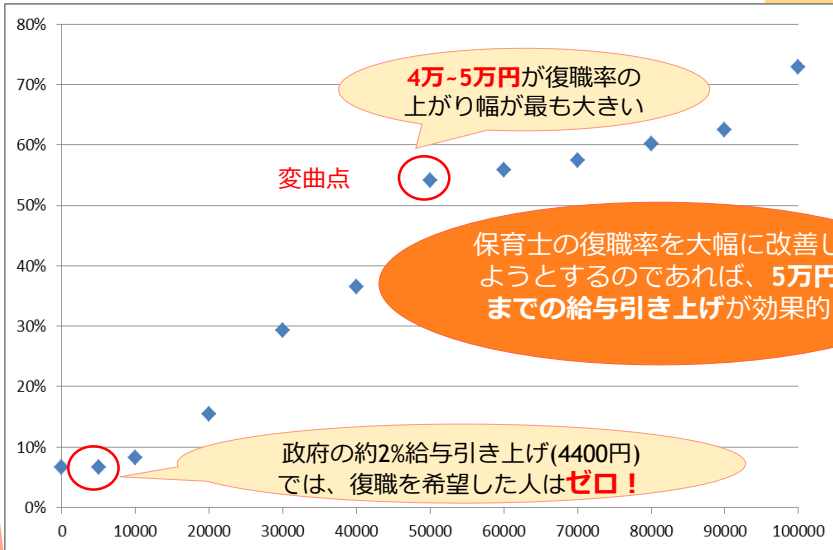
▶**潜在的待機児童（北海道）:1297人**



年齢	必要な保育士数	待機児童年齢別割合	待機児童数	保育士数
0歳児	概ね3人に保育士1人～	13.30%	172.501	57.5
1、2歳児	概ね6人に保育士1人～	68.70%	891.039	148.5
3歳児	概ね20人に保育士1人～	18%	233.46	11.7
合計			1297	217.7人

⇒**北海道内の待機児童を0にするために必要となる追加的な保育士数は約220人以上**

②給与：受諾率曲線



道内の待機児童解消に必要な保育士数: **約220人**

約**1万円**の給与引き上げ: 約580人の保育士確保

約**7000円**の給与引き上げ: 約220人の保育士確保

全体的考察

- ▶ 保育士の復職率上昇に必要な要因：
相談体制の充実・雇用体系の多様性
- ▶ 政府が提示する給与2%引き上げ額(約4400円)では復職希望した人は**ゼロ**
- ▶ 待機児童数(北海道)：**約7000円**の給与引き上げで解消

ただし、

- ▶ 発表されている潜在的待機児童数以上に、潜在的需要がある可能性あり
- ▶ 女性の社会進出によって、潜在的待機児童は増える可能性あり

復職率をあげるためには、**5万円までを目安**に給与の引き上げを考えていく必要がある